

## ザトウムシ

学校の再開に合わせてように現れました！今回は、白井中でよくお目にかかる、謎の生物「ザトウムシ」の紹介です。6月4日、今年初めての「ザトウムシ」を昇降口のあたりで私は見かけました。「ザトウムシ？」どんな姿をしているのでしょうか？多くの方は、知らないと思うので、想像してみてください。まず、①『トトロ』に出てくる「まっくろくろすけ」。次に、その体に、②『千と千尋の神隠し』に出てくる「かまじい」の手足をつける。ほら、「ザトウムシ」の出来上がりです。小さな（白井中に生息しているのは結構大きいですが・・・）体に、その数倍はある華奢で細長い脚。それが「ザトウムシ」です。

さて、「ムシ」という名前はついていますが、彼らは、「クモ型類の節足動物」という区分に属しています。姿かたちは「クモ」に似ていますが、決定的な違いは、その捕食スタイルにあります。「クモ」類は獲物をそのままパクパクとは食べません。でも、「ザトウムシ」類は、「クモ型類」の中で唯一、獲物をそのまま食べるグループです。暗がりですぐに出会おうと、びっくりしますが、相手の「ザトウムシ」も臆病な



のでびっくりしています。きっと、慌てて逃げようとするでしょう。どうぞ、温かい目で見てあげてください。決して追いかけて・・・などと思わないでくださいね。

彼らは、最後の手段として、華奢なあの長い脚を自分で切つて（自切 じせつ といいます。このようにして敵から逃げる生き物は、結構います。有名どころでは、トカゲ、ミミズなどです。あらかじめ、切れやすくなっています。）逃げていきます。切り離れた脚は、けなげにも、しばらくの間跳ね動くことで敵の目を引き、本体を逃がす手助けをします。その他にも、あるいは、死んだふり。あるいは、臭腺から忌避物質を出す。いずれにしても、決してあなたに害は加えません。むしろ、虫の死骸や菌類を食べる、掃除屋としての一面があるくらいです。私も、白井中に来て初めて出会った「愉快的仲間」です。

最後に、おまけです。先ほど「自切」の例で紹介した「ミミズ」ですが、彼らは実に合理的な生物です。『そもそも、土の中にいるんだから、目なんていらんんじゃないかな？』ある時気づいた彼らは、「目」を捨てました。続いて、『そもそも、ただ、エサを探して食べる、それだけで、難しいこと考えるわけではないんだから、脳なんていらんんじゃないかな？』「脳」を捨てました。残ったのは、基本「腸」の機能。それを駆使して、いろいろに使い分ける。彼らなりの生き残り戦術です。えっ！「脳」ってなくても生きていけるんですか？そうなんです。生物界には、結構「脳」を持たない生物がいます。（「脳」はエネルギーを使うので。）例えば、海でゆらゆら～「海月」と書く生物な～んだ？ 正解は・・・「クラゲ」です。昔の人の発想の美しさには脱帽です。（だつぽう 帽子を脱ぐ？ どういうことだろう。想像してから調べてみてね。）